特別展

2023年9月10日㈰
〉〉〉11月26日㈰

重松清ヒストリー

――〝今〟を描く直木賞作家の心のふるさと岡山――

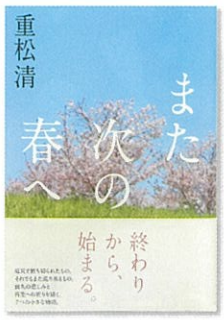
直木賞作家　重松清氏は、ことし還暦を迎えられ、この節目の年にあたり、心のふるさとである岡山で特別展「重松清ヒストリー」を開催します。重松作品は、その年代における〝今〟に起きた出来事、社会問題また「家族のかたち」を物語として描かれ、その著作の数々に読者は惹きつけられる。本特別展では、原稿類、著作本、インタビュー記事などから重松清氏の軌跡を辿ります。

写真提供：新潮社

重松 清　Shigematsu kiyoshi

1963年　岡山県生まれ　早稲田大学教育学部卒
　　出版社勤務をへて著述業に
1991年　『ビフォア・ラン』で作家デビュー
1999年　『ナイフ』で第14回坪田譲治文学賞受賞
1999年　『エイジ』で第12回山本周五郎賞受賞
2001年　『ビタミンF』で第124回直木賞受賞
2010年　『十字架』で第44回吉川英治文学賞受賞
2014年　『ゼツメツ少年』で第68回毎日出版文化賞受賞
2016年～　早稲田大学文化構想学部教授（任期付き）

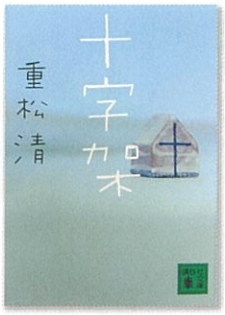
その他の主な著書に『流星ワゴン』『とんび』『きみの友だち』『疾走』『その日のまえに』など。



『また次の春へ』
（扶桑社/2013年）

『ビフォア・ラン』
（幻冬舎文庫/1998年）

『ゼツメツ少年』
（新潮文庫/2016年）



『十字架』
（講談社文庫/2012年）

～〝今〟を描く～

『不朽の名作』といわれるような、いつの時代に読んでも変わらない小説は書きたくない。90年代後半でしか出てこない作品、自分たちが生きている『今』という時代をぎゅっと凝縮した作品を書きたい。（山陽新聞朝刊1999.1.23「ひと」より）

受賞時しげまつ語録

第14回坪田譲治文学賞受賞

〝びっくりの受賞〟

～発想も価値観も書き方も具体的で、俗っぽい。それが自分のスタイル。坪田譲治文学賞に一番向いてない人間だろうと思ってました。～
（山陽新聞インタビューより）

『ナイフ』（新潮社/1997年）

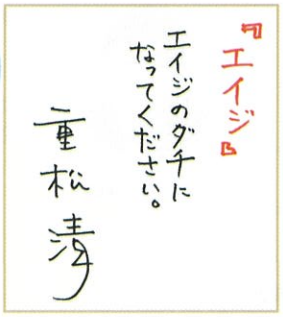
第14回坪田譲治文学賞授賞式であいさつする重松氏
（吉備路文学館所蔵）

第12回山本周五郎賞受賞

〝100%のうれしさ〟

～こんな悪ガキを、この賞は四年間も見守ってくれたんだなと気づき、いま100%のうれしさです。～
（「授賞式あいさつ」より）

『エイジ』（朝日新聞社/1999年）



エイジ小色紙

第124回直木賞受賞

〝まいっちゃったなあ〟

～「ほんとにオレでいいのかなあ」という戸惑いがある。もちろん小説を書くときは自分なりに精一杯真摯な姿勢で作品に取り組んではいるのだが、それでもやはり困惑する。・・・「まいっちゃったなあ」～
（授賞式後の記者会見より）

『ビタミンF』（新潮社/2000年）

TVドラマ化、映画化された際の文庫本

※多数ある中の一部

『流星ワゴン』
（講談社文庫/2005年）

『とんび』
（角川文庫/2011年）

全国19の地方新聞（山陽新聞など）に掲載

『はるか、ブレーメン』
（幻冬舎/2023年）

〈交通のご案内〉ＪＲでお越しの方：岡山駅より徒歩15分、タクシー3分
バスでお越しの方：岡電バス〔妙善寺・三野公園〕行、または宇野バス〔美作方面〕行で「南方交番前」下車徒歩3分
お車でお越しの方：文学館前の道路は午前東行・午後西行の一方通行です。

吉備路文学館
KIBIJI LITERARY MUSEUM